

## 第 69 回 入学式 式辞

2023. 4. 5 学長 西内みなみ

第 69 期生の皆様、桜の聖母短期大学へのご入学おめでとうございます。

1955 年に開学した本学は、皆様と共に、69 年目の春を迎えています。

聖母マリア、本学の創設者聖マルグリット・ブールジョワと共に、桜の聖母短期大学は、皆様のご入学を心から歓迎しています。

皆さまは、今日まで、本当に多くの試練を乗り越えて来られました。

小学校入学直前、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の被害に遭い、その後、屋外での活動を制限されました。コロナ禍が始まった 3 年前には一斉休校要請を受け、残り少ない中学校生活が突然断ち切られました。高校 3 年間は感染防止のマスクが欠かせず、休校、部活動の自粛、大会・コンクール等の中止、修学旅行に行けなかった学校もあったでしょう。

一方、昨年 4 月、成人年齢を 20 歳から 18 歳に引き下げる民法改正によって、皆さまは高校生で「大人」になる初の世代になりました。今、「大人」である皆さまは、様々な試練を乗り越えて、それぞれが置かれた場所で「何ができないか」ではなく、「何ができるか」を考える能力を育まれ、本学を選択して下さいました。本当にありがとうございます。

桜の聖母短期大学も、感染予防への細心の注意を払いながら、本学がこれまで大切にしてきた、人と人がつながる学びを、学生に提供し続けています。

学生の代表である学生会も意欲的に取り組んで下さり、昨年度、ハローウィンや「あかしや祭」も中止せず、様々な工夫をこらして実現して下さいました。「何ができるか」を創意工夫し、ピンチをチャンスに変える学生たちに、たくさんの励ましを頂きました。

皆さまにとってのこの 2 年間は非常に貴重な時間であり、その時間を実りあるものにしていくことが本学には求められています。

あの震災から 12 年、コロナ禍での 4 年目、ロシアのウクライナ侵攻から 1 年が過ぎ、今、私たちは様々な試練の中でこそ、「他者のために生きる」という人間の本質に立ち返えることを求められています。

短大の正面玄関ホールには、世界に一つしかない美しいステンドグラスがあります。

そこに描かれているのは、先ほど朗読された聖書の場面です。イエス・キリストを身ごもっている聖母マリアが、山路を越えて、遠い親戚のエリサベトをご訪問したという場面です。この「ご訪問の聖母マリア」は、桜の聖母短期大学が最も大切にしている「建学の精神」を表わしたシンボルです。

聖母マリアは、たぶん 10 代でしたから、皆様と同じ年ごろの若い女性でした。

赤ちゃんを授かり妊娠していました。自分も妊娠して、たいへんであったにもかかわらず、親戚のエリサベトが高齢で妊娠したと聞き、心配して、遠く離れた山里までお見舞いに行き

ました。そして、2人が出会った場面、この聖書の場面が、桜の聖母短期大学の正面玄関にある美しいステンドグラスに描かれています。

そこに描かれた「ご訪問の聖母マリア」の精神、それは、心配な方がいたら、妊娠している我が身を省みず、ご訪問する、愛と奉仕に生きる聖母マリアの精神です。まさに「他者のために生きる」という人間の本質を現しています。

この「ご訪問の聖母マリア」の精神のもと、桜の聖母短期大学の設置母体である修道会が創立されました。

1657年、聖マルグリット・ブールジョワという一人の修道女が、フランスから、大西洋を船で2、3か月もかけて、未開地のカナダに出かけて行き、多くの子どもたちや大人たちに教育を授けました。

聖マルグリット・ブールジョワの設立した修道会は、フランス語で「コングレガシオン・ド・ノートルダム」日本語に訳すと「聖母マリアの修道会」といいます。この修道会は、未開地だったカナダの発展に大きく貢献しました。聖マルグリット・ブールジョワは、カナダの方なら誰でも知っているシスターであり、聖人であり、カナダでは建国の母として敬愛されています。そして、何よりも、優れた教師でした。

カナダの建国に大きな貢献をした聖マルグリット・ブールジョワの修道会が、1932年、今から約90年前、5人のシスター達を日本に派遣して下さいました。それが、東京でも、仙台でもなく、この私たちの街、福島市に、です。これも奇跡です。

5人のシスターは、福島市に修道院を開設され、まず、幼稚園を、そしてその子たちが進学する小学校を、中学校を、高等学校を次々と開設されました。そして、その高校生たちに高等教育を受けさせたいという願いから、1955年に開設された学校が、この桜の聖母短期大学です。

フランスからカナダに派遣された聖マルグリット・ブールジョワが、カナダで愛と奉仕に生きたように、カナダの修道会から福島市に派遣されたシスター達も、福島の子どもたちや大人たちのために、愛と奉仕に生きて下さいました。その歴史と伝統によって、今日、私たちは、69期生の皆様をお迎えする事ができるのです。

私たち教職員と共に、感染予防しつつ、桜の聖母短期大学ならではの学びによって、希望を持って最善を尽くしていきましょう。

あなたの夢を桜の聖母短期大学で実現し、あなたが、あなたのなりたい自分になり、愛と奉仕に生きる良き社会人として母校を巣立つ日まで、私たち教職員一同は、いつも皆様の隣りにいて、支援させていただきます。

69期生の皆様とそのご家族に、そしてこの桜の聖母短期大学に集うお一人おひとりに、主イエス・キリストと聖母マリア、聖マルグリット・ブールジョワの豊かな祝福をお祈りして、式辞といたします。